

# 秋の遠足



## 川崎千束

行なっています。年間の保育の中にエポックメーカーキングなものがあってよいと思います。あの京の大文字、あれほど見事に晩夏の寂寥を表出するゆえに、移る季節への勤労の意欲がわくのだと、幼い日に祭りばやしに指折り待ったあのみち足りた喜びを忘れることができません。

### いも掘りをえらんだ理由

遠足の主目的を、子どもの経験活動と自然への融合にすべきであると、私の考えを決定的にしたのは、なし

もぎはなしの棚は子どもの背丈よりも高く、とび上がってもぎとろうとすれば、なし園主の制止にあいいます。したがってなしもぎの主人公は母親

になり、子どもたちはお弁当の時だけいきいきするといった状態であり、くり拾いは、いがから脱けてたくり、

の形態をとり、一ヵ月に一度はどこかへ出かけます。国電、私鉄、路線のバスを利用するので、園児数八十名のわが園では経費は一回が三千元以内でこと足ります。

いも掘りに落着くまでには、なしもぎ、くり拾いに出かけた年もありました。その当時に反省してみると、保育者の心に、物珍しきへの期待と、

遠足の主眼を行事的のみにとらえていました。わき道ながら、私は運動会は、練習こそコンコンながら、現在でも親子で楽しむ園の行事として

秋の遠足は十数年来、いも掘りときめています。しかし、子どもの園では遠足というよりもむしろ保育の一環としての園外保育なのですが、とにかく秋に、目的をもって遠出することなので、子どもの側に立てば、名称はともあれ、同一のことであろうと、園外保育いも掘りについて記します。

五月に、母親たちの親睦の意味も含めて、春の遠足。三月に、むつみ合った同志、親子で別れを惜しむお別れ遠足。この他はすべて園外保育

## いも掘りの実際

いがのままのくりが足もとにあり、一応子どもの活動はあるものの、しかし、まあ何と不自然なことでしょう。大人たちにはまいてあるとはつきりわかるほどにくりがころがっています。私は拾っていて心が暗くな

り、子どもたちに申し訳ないとわびたくなってきました。自然と子どもの心を冒とくしてよいものだろうか。田舎の家に大きなくりの木が三本あ

って、夜半、風が荒れた朝でも、拾うくりの数は手かごに一杯ぐらいたったことを私は承知していたからです。くり林とはいいい条、あたかも小石原のようにくりがころがり、こんなに安易に拾えたのでは、回顧する時があったら、大人への不信感をいだくことでしょう。

右の事情により、なしもぎ、くり拾いはとりやめにしました。

いも掘りは十数年来同じ農家にお願いしています。また、前もつていものつるや葉を刈りとらないように依頼もしておきます。長年のなじみ

なのでいも掘りにとって効率の悪いつるを残しておくことも、快く承知してもらっています。近年、新道が開け路線のバスを降りるとすぐ目的のいも畑です。いもを痛めないよう木しゃもじで掘り上げるので、子どもたちにとって、大仕事です。いもとの戦いです。三歳児でも見事な集中ぶりを見せます。父親の古い靴下を靴の上からすっぽりはいて畑へ入りますが、手袋はこの大仕事には邪魔になるのでつけないことにしています。先生、みて、こんなの、先生、すごいでしょう、こんな歓声に應對

しているの、懸命に掘っても私の掘り上げたいもの数は四歳児にも及びません。掘り上げた後も、やわらかい畑土の感触を楽しんで、小さい盛り土を並べたりしています。

## そのあとで

家に帰ってから、重いいも袋を電話口にはこび、ぼく、ひとりでこなにほったの、と父親に電話で報告。いも掘りを描いたの、という絵の画面には、青空にお日様が二つ、いも掘りの手が怪物のように大きく描かれていました。

その子の経験活動と、その心にしみ通った確かなものが読みとられ、保育者の胸も、ひたひたと満足感に浸されます。

(東京家政大学付属みどりヶ丘幼稚園)